

## 魚類

昼と夜、満潮まんちようと干潮かんちようで見ることのできる魚は異なります。観察の容易な干潮時には、そこで一生を過ごす小さな魚が数多く見られます。スズメダイ、クマノミ、ベラ、ハタ、ギンポ、ハゼ、チョウチョウウオ、フグ、カワハギ、ヒメジなどの仲間です。どの魚も個性的な体形、はでな模様、鮮やかな色彩で自己主張をしています。

### ミツボシキュウセン

主に砂地で見られるベラで、スマートな体です。泳ぎます。雌の体色は淡いクリーム色、雄はやや濃い色をしています。釣針の付いたエサを用心しながら小さな口先でつつきながら食べます。大きな成魚は警戒心が強くエサの周りを泳ぎながらなかなかエサに食いつきません。夜は砂にもぐり込んで寝ます。胃の中から星砂や太陽の砂と呼ばれる有孔虫ゆうこうちゅうの死骸しかいが見つかることがあります。そのような魚はやせていて、エサ不足で有孔虫や海藻かいそうを食べているものと思われま



### ハリセンボンの仲間

体が丸くすんぐりして目が大きくかわいい口をした愛嬌あいぎょうのある魚です。泳ぎもゆったりし、警戒心も弱くつかまえます。つつくと風船のように膨ふくれて海面近くに浮き、鋭いトゲを突き立てて身を守ります。トゲに毒はありませんが、ささと痛いので注意しましょう。海水から取り上げると「グーグー」と鳴くことから、方言で「アバサー」（おしゃべり）と呼ばれます。トゲで料理しにくいですが、魚汁が大変おいしい魚です。



### オジサン

下あごの先に2本の長いひげを持つことから名付けられたヒメジの仲間です。体はやや細長く雰囲気ぶんぎがコイによく似ており、海底を群れて泳ぐ魚です。海底をあごヒゲでさわりながらエサを探し、折りたたまれた口を伸ばしてエサを吸い込みます。この魚をうまく釣るコツは、海底に置いたエサをこの魚の目の前で急に引き上げることです。反射はんしゃ的に素早く急上昇してエサを飲み込みますが、このような行動しやてきをするのはこの魚だけです。



## カンモンハタ

ミーバイと呼ばれるおいしい魚です。普段は海底のサンゴや岩の間、穴に隠れています。口が大きく貪欲<sup>どんよく</sup>なので、釣るコツは大きなエサを海底すれすれにおくことです。ゆっくりとエサに近づき、瞬間的に飛びついて、他の魚を追い払って飲み込みます。その後すぐに自分のいた穴に戻る<sup>ただ</sup>ので直ちに釣糸を引き上げないと岩にひっかかります。最初の瞬間的な引きの強さが特徴ですが、持続力<sup>じぞくりよく</sup>はなく最後はあっさりと引き上げられます。



## ブダイの仲間

海底を群れて泳ぐきれいな魚で「イラブチャー」と呼ばれます。オウムのくちばしのような歯でサンゴや藻類を岩ごとかじり取って食べます。のどの奥にある非常に硬い歯でそのサンゴや岩を噛み砕き、泳ぎながらその粉を肛門<sup>こうもん</sup>から煙のように海水中に捨てます。体はぬるぬるしており、夜は岩陰に透明な粘液<sup>ねんえき</sup>の膜を張ってその中で寝ます。普段は釣エサに見向きもしませんが、実は口先でパクパク出し入れして釣針からエサを取る名人です。



## ムサメモンガラ

単独<sup>たんどく</sup>で泳ぐ紫色の模様をした美しいカワハギです。鱗は厚く1枚につながっており、表面は紙ヤスリのようにザラザラしています。穴に逃げ込んで大きな第1背ビレを立てると取り出せません。小さな第2背ビレを倒せば第1背ビレも倒れます。顔と泳ぎがユーモラスで、海中から取り出すと「グーグー」と鳴きます。最初はエサに無関心のふりをしていますが、エサの投げ引きを繰り返していると直線的に泳いできてエサに食いつきます。



コラム  
COLUMN

### 沖縄の暮らしをささえるサンゴ礁の魚たち

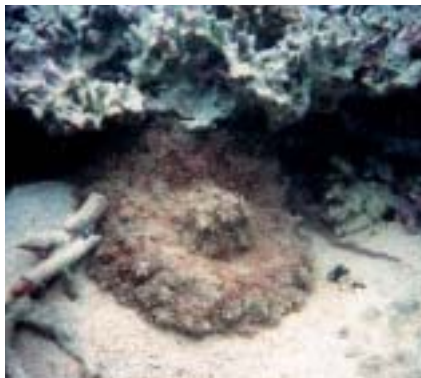
私たちの食べているグルクンやイラブチャー、スク(アイゴ)などはサンゴ礁でとれる魚です。島々の周囲に広がるサンゴ礁では昔から追い込み漁などが行われてきました。サンゴ礁では一種類の魚が大量にとれることは少ないですが、魚の種類が豊富なことが特徴です。枝や扇<sup>おうぎ</sup>やキノコのような形をしたサンゴは魚の家になるのです。



(島村賢正)

# 危険生物

安全な観察のためには、危険な生物の形やすんでいる場所を覚えておきましょう。



## ウンバチイソギンチャク

岩にくっついている海藻かいそうのように見えますが、れっきとしたイソギンチャクです。とても強い毒をもっていて、表面にある1~2mmしほうきゅうくらいの刺胞球しんそうで刺されれます。腎臓などがおかしくなる場合もあるので、刺された時は必ず病院でみてもらいましょう。

応急処置

こすらず、海水しほうきゅうで刺胞球を洗い流し、氷や冷水で冷やす。



## フサウンバチイソギンチャク

乳白色で、人の指のような突起とつきがたくさん並び、ソフトコーラルのようにみえます。指のような突起には、ウンバチイソギンチャクと同じように刺胞球しほうきゅうがたくさんあります。刺された時もウンバチイソギンチャクと同じような症状だと考えられています。

応急処置

こすらず、海水しほうきゅうで刺胞球を洗い流し、氷や冷水で冷やす。



## ハナブサイソギンチャク

カリフラワーのようにモコモコした形のイソギンチャクです。刺激を受けるとすばやく砂の中へもぐります。触手の先端しよくしゅには、割れたもみ殻ちようのようなつづきゅう球があり、その中に刺胞がたくさんつまっています。

応急処置

こすらず、海水ちようきゅうで頂球を洗い流し、氷や冷水で冷やす。







## イワスナギンチャク

体の中に砂つぶなどを埋め込んで体を補強しているのので、スナギンチャクと呼ばれます。岩にくっついて集団を作ります。あまり刺されることはありませんが、体の中にとっても強い毒を持っているので絶対にさわらないようにしましょう。

応急処置

ねんえき

粘液などが目に入った時は、**真水**でよく洗い流す。



## イラモ

かいそう

海藻のように見えますが、クラゲの仲間です。集団で石や岩の上に付着しています。ポリプは鞘せやの中におさまっています。鞘の先からラッパのように広がった口を出しています。その縁にはたくさんの細長い触手しよくしゆがあり、この触手で刺されます。

応急処置

しよくしゆ

こすらず、**海水**で触手を洗い流し、氷や冷水で冷やす。



## アンボイナガイ

かく

殻長約10cmになる大きな巻貝です。赤茶色の網目模様があり、体の中に毒の入った鋸状の歯舌もりじよう しぜつをもっています。刺されても痛みはほとんどありませんが、すぐに体がしびれ、おぼれる危険性があります。死亡例がありますので、絶対にさわらないようにしましょう。

応急処置

口で毒を吸い出しながら、**病院**へ運ぶ。



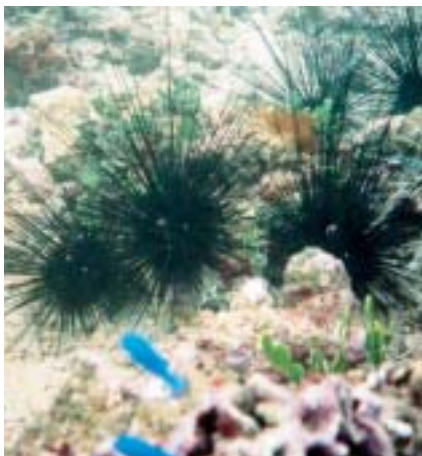


## ヒョウモンダコ

体長12cmくらいの小さなタコです。腕と胴部にある青い小さな模様は、ふだんは目立ちませんが、興奮したりすると輝くような青色になります。さんご礁の岩穴や石の下などに生息しています。足のつけ根にある口に猛毒をもっていてかみつきます。絶対にさわらないようにしましょう。

応急処置

口で吸い出さず（飲み込むと危険）、毒をしぼり出し、病院へ運ぶ。



## ガンガゼ

とても長くするどいトゲをもつ黒いウニです。上から見るとあざやかな青い点や白い点が目立ちます。トゲに刺されると激しい痛みがあります。トゲは折れやすく、刺さるとぬげにくいので、体内に残っている場合もあります。病院でみてもらいましょう。

応急処置

目に見える大きなトゲは取りのぞき、40～45℃程度のお湯につける（やけどに注意）。



## オコゼの仲間

背ビレに毒があり、刺されると激しい痛みがあります。オコゼの仲間は、色・形が石や岩にととてもよく似ています。また、砂中にもぐっていることもあるので注意が必要です。浅い場所にいることもあり、ふみつけて刺される場合もあります。

応急処置

目に見える大きなトゲは取りのぞき、40～45℃程度のお湯につける（やけどに注意）。





## ウミケムシの仲間

石の下などに隠れていたり、岩上やサンゴの間を歩き回ったり、泳いだりします。細長い体の両側には多数の毒毛どくもうが生えています。毒毛で刺されると、とても痛く、さされた所に抜けた毒毛が残っている場合もあります。

応急処置

こすらず、セロテープなどで毒毛を取りのぞく。



## ウミヘビの仲間

ウミヘビの仲間は、沖縄に8種類生息しています。強い神経毒しんけいどくをもち、かまれると神経がマヒして動くことができなくなります。ウミヘビの方から近寄ってくる場合もありますが、こちらから手を出さない限りは、かまれることはほとんどありません。しかし、中には気が荒い種類もいるので、絶対にいたずらしないようにしましょう。

応急処置

口で毒を吸い出しながら、病院へ運ぶ。



スベスベマンジュウガニ

ウモレオウギガニ

## スベスベマンジュウガニ・ウモレオウギガニ

夜の潮干狩りでよく見かけるカニです。スベスベマンジュウガニは丸くふくらんだ楕円形だえんけいで、すべすべした褐色の甲羅かっしやくこうらに、白から黄色の斑模様はんもようがあります。ウモレオウギガニは扇形あうしがにで、でこぼこのはっきりした褐色の甲羅に、青白い複雑な模様があります。まひ性の強い毒をもち、少しでも食べると口や手足がしびれて、呼吸困難こきゅうこんなんで死亡します。

応急処置

食べた場合はすぐに吐き出し、医者の手当を受ける。



(岩永節子・鹿谷法一)



# 鳥類

大度海岸では潮が引いているときに多くの鳥がやってきます。様々な磯<sup>いそ</sup>の生物が暮らす大度海岸は、鳥にとっては海の幸のレストラン！鳥のくちばしは好きな餌がうまくとれるような形になっています。鳥を見つけたらおどろかさないうる遠くから観察して、くちばしの形や餌を探す場所、餌をとるようすから、何を食べているのかあててみましょう。 ※（ ）内は方言名

りゅうちゅう

**留鳥**：一年中同じ地方で生活する鳥

なつ

**夏鳥**：春から初夏のころに南方からやってきて巣作り・子育てをし、秋になると再び南に戻っていく渡り鳥

ふゆ

**冬鳥**：晩夏から秋に北方からやってきて越冬<sup>えっとう</sup>し、春に再び北に戻っていく渡り鳥

たび

**旅鳥**：春や秋の渡りの途中に通過していく鳥

## イソヒヨドリ(イシゾウサー)

ツグミ科

オス

メス

成鳥の雄は胸と背面が暗青色で、腹は赤褐色<sup>めす</sup>。雌は全体が黒褐色で、下面にはうろこ模様<sup>がんしゅうちたい</sup>。海岸の岩礁地帯や市街地などに広く生息<sup>ほんしよく</sup>し、繁殖する留鳥。海岸ではカニ類やフナムシを、海岸近くの草地では昆虫類などをとらえる。

全長：23cm

鳴き方：ツツーピーコー、ツツーピーコー

見られる時期 **1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12**



## ハクセキレイ

セキレイ科

全体に白と黒が目立つ。冬鳥として渡来し、海岸や河口の干潟<sup>ひがた</sup>などで見られる。なわばり性が強く、よく追いかけてくっしている。少し飛び上がったたりしてエサをとらえる。

全長：21cm

鳴き方：チュンチュン、チュチュンチュチュン

見られる時期 **1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12**



## キョウジョシギ

シギ科

体上面は赤褐色と黒と白の鮮やかなまだら模様。全国の海岸や河口などに旅鳥として渡来する。活発に動き回り、打ち上げられた海藻<sup>かいそう</sup>や貝などをひっくりかえし、そこから出てくるカニやハマトビムシ(ヨコエビ類)などを食べる。

全長：21~26cm

鳴き方：ギョッギョッ、ケレケレ

見られる時期 **1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12**



## アオアシシギ

シギ科

足は長く緑青色。くちばしは長くやや上にそり、黒っぽい。飛ぶと白い腰の部分がはっきり見える。旅鳥や冬鳥として渡来し、海岸や河口などで見られる。

全長:30~35cm

鳴き方:キョーキョーキョー、チョーチョーチョー

見られる時期 **1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12**



## キアシシギ

シギ科

黄色い足が特徴。旅鳥として渡来し、海岸や河口などで見られる。繁殖生態は不明な点が多い。  
はんしよくせいいたい

全長:23~27cm

鳴き方:ピウィーピウィー

見られる時期 **1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12**



## イソシギ

シギ科

上面は全体が灰黒褐色で腹の白色が翼の付け根の前までつづく。冬鳥として渡来し、海岸や河口などで見られる。歩く時に尾を上下に振り、飛ぶときは翼の先だけを、けいれんするように小刻みに動かす。  
つばさ

全長:19~21cm

鳴き方:チーリーリーリー

見られる時期 **1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12**



## チュウシャクシギ

シギ科

下に曲がったくちばしと頭の黒褐色の線が特徴。干潟で見られるダイシャクシギより小さい。春秋の渡りの時に旅鳥として入江や海岸で見られ、一部は越冬する。  
いりえ えつとう

全長:42cm

鳴き方:ホイピピピピ

見られる時期 **1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12**





## ムナグロ (ハルチジュヤー)

チドリ科

冬羽では上面は黒と黄褐色で、白の細かいまだら模様があり、くちばしと足は黒い。沖縄には旅鳥や冬鳥として渡来する。海岸や干潟、畑や牧草地など、県内で最も普通に見られるチドリ類。

全長: 23~26cm

鳴き方: キビョーキビョー

見られる時期 **1** **2** **3** **4** **5** **6** **7** **8** **9** **10** **11** **12**



## ダイゼン

チドリ科

ムナグロによく似ているが、一回り大きい。飛んだときに黒いわき羽がよく目立つ。沖縄には旅鳥や冬鳥として渡来し、海岸や干潟で見られる。

全長: 27~31cm

鳴き方: ピウーイ

見られる時期 **1** **2** **3** **4** **5** **6** **7** **8** **9** **10** **11** **12**



## シロチドリ (チジュヤー)

チドリ科

成鳥の上面は灰褐色で下面は白色。雄は頭と胸のわきに黒色があるが、雌は褐色。くちばしと足は黒い。留鳥として、県内で繁殖する。海岸の砂地などに巣をつくる。足で地面をたたいてカニなどを追い出して食べる。

全長: 15~17cm

鳴き方: ピュル、ピュル

見られる時期 **1** **2** **3** **4** **5** **6** **7** **8** **9** **10** **11** **12**



## コアジサシ

カモメ科

アジサシ類の中では小型。全身が白っぽく、頭は黒色で、くちばしは黄色い。翼と尾は長い。夏鳥として渡来し、海岸や河口砂浜などで繁殖する。空中で<sup>ていつ</sup>停滞しながらエサをさがして、水中へ飛び込んで魚を捕らえる。

全長: 22~28cm

鳴き方: キリッキリッ

見られる時期 **1** **2** **3** **4** **5** **6** **7** **8** **9** **10** **11** **12**



## ダイサギ (サージャー)

サギ科

首や足が長く、全身白色。夏はくちばしが黒く、冬は黄色い。サギ類は飛んでいるとき首をS字に曲げるのが特徴。沖縄には冬鳥として渡来する。単独で行動することが多く、夕方遅くや月明かりの下でもエサを探している。

全長: 80~90cm

鳴き方: ゴアーゴアー

見られる時期 **1** **2** **3** **4** **5** **6** **7** **8** **9** **10** **11** **12**



## コサギ (サージャー)

サギ科

シラサギ類の中では小型。くちばしと足が黒く、足の指だけが黄色いのが特徴。沖縄には冬鳥として渡来する。  
あさせ 浅瀬でじっと待ち伏せしたり、歩き回ったり、片足で水底をかきまわしたりしてエサをさがす。

全長: 55~65cm

鳴き方: グワァーグワァー

見られる時期 **1** **2** **3** **4** **5** **6** **7** **8** **9** **10** **11** **12**



## クロサギ (サージャー)

サギ科

コサギくらいの大きさ。くちばしは黄緑色で、足は暗黄緑色で短め。全身が黒色と白色の2つのタイプがある(写真は白色型)。海岸の岩礁地帯などに生息し、繁殖する留鳥。カニや魚類などを波打ち際で待ち伏せしてとる。

全長: 58~66cm

鳴き方: グワァーグワァー

見られる時期 **1** **2** **3** **4** **5** **6** **7** **8** **9** **10** **11** **12**



## アオサギ (サージャー)

サギ科

体の上面は青っぽい灰色で、下面は白っぽい。くちばしと足が黄褐色。沖縄には冬鳥として渡来する。日本最大のサギ。大きな魚などは一度突き刺してつかまえてから、くわえなおして頭から飲み込む。

全長: 90~98cm

鳴き方: グワァーグワァー

見られる時期 **1** **2** **3** **4** **5** **6** **7** **8** **9** **10** **11** **12**



# ウミガメ

## 1 沖縄にはどんな種類がいるの？

大度海岸などを含め、沖縄近海に見られるウミガメは甲が大きいものから順にアオウミガメ、アカウミガメ、タイマイの3種類です。ウミガメはトカゲやヘビなどと同じ爬虫類ほちゆうるいで、まわりの温度によって体温が高くなったり低くなったりする変温動物へんおんどうぶつです。熱帯や亜熱帯などのあたたかい海にすんでいます。



アカウミガメ      アオウミガメ      タイマイ

## 3 種類のウミガメと砂浜についた跡

## 2 どうして砂浜にやってくるの？

砂浜で、まるでキタピラーの跡のようなものが見られることがありますが、それはウミガメが産卵のために砂浜に来たときにできるものなのです。ウミガメは自分の生まれた場所をおぼえていて、そこに帰ってきて産卵するといわれています。これを母岸回帰ぼ がんかい きといいます。どうして自分の生まれた砂浜がわかるのかはよくわかっていませんが、においなどが関係しているともいわれています。ウミガメは大変用心深い生き物で、人や明かりが多いと上陸しないとされています。産卵は5月から9月ごろに行われ、1回の産卵で平均100～120個の卵を産みます。約2ヶ月ほどで卵からかえり、子ガメとなり海に帰っていきます。

## 3 ゴミを食べてしまうってほんと？

ウミガメの好きなたべものは、海藻かいそうや海草かいそう、クラゲ、ヒトデ、貝類、カニ、エビなどです。海にすてられるゴミの増加によって、沖縄の近海でもビニール袋をクラゲとまちがえて食べたウミガメが死んでしまう事故も起こっています。ゴミをきちんと持ち帰るのは大切なマナーです。

ビニール袋の一部



ナイロン糸



ゴム



てい ち あみ  
定置網にかかって死んでいたアオウミガメの内臓からでてきたゴミ  
(2003年1月北谷町漁港より水揚)

(城間 優)